

インタビューが衝撃的

二月末、小林アツシさんが作成した「どうするアンポ」の試写会に行った。五〇年間もほったらかされてきたこのタイムリーな大テーマを、全体で四分(パート1:二三分、パート2:二一分)という中に、どうやって押し込められたのだろうという驚きが、見る前からあった。今、話題の長大ドキュメント(八時間一四分)「アメリカ―戦争する国の人々―」を作成した藤本さんもいらして、小説も映画も、短編が得意な人と長編が得意な人というのだと思った。

パート1「アンポは日本を守っている?」
基礎編」は一三項目、パート2「アンポの闇、立ち上がる人々」は八項目で構成され、そのほとんどが独立してドキュメントになりそうなテーマだが、小林さんは、実に的確に思い切って短くできる人なのだと思う。だから、経済の問題は、もつと突っ込みがほしかったとかいう注文を、このコンパクトなドキュメントに出すことは筋違いだろう。観た人が自分で深めていくべき問題提起を受けたと思う方がよい。

最初の街頭インタビュー「米軍基地、いる? いない?」は、予想通りとはいえ衝撃的だった。それでDVDの中の「特典映像―街頭インタビュー、フルバージョン(二六分)も観た。原宿、渋谷、秋葉原……修学旅行と思われる高校生、中年の女性たち、初老の男性などの反応の殆どが、本当に情けない。しかしこれが現実なのだ。守ってくれている、守ってもらう方が経済的に安上がり、一方で米軍はいない方がよい、自力でやるべきという自主防衛論、戦争に負けたんだから仕方ないという思考停止……。さらに情

メディア紹介

『どうするアンポ ～日米同盟と私たちの未来～』

2010年1月制作
プロデューサー：立山勝憲／ディレクター：小林アツシ
企画・制作 日本平和委員会／日本電波ニュース社
パート1 23分、パート2 22分(＋特典映像)
販売価格 5000円＋税

古荘斗糸子 (うちなんちゅの怒りとともに!三多摩連絡会)



けないのは、質問のマイクを向けられて「わかんな〜い」と逃げたり(大のおとなも!)。三〜四人グループでは、お互いに顔を見合い、最初に発言した人の意見に「そう、そう」と頷くばかりなのだ。一グループだが、お互いに違う意見を言う若者たちもいたが。私も駅頭情宣で出会う多くの若者が、政治に関心を示すことをカッコ悪いと思っているように感じるが、政治に無関心な方がカッコ悪いよ、という状況を作らなくてはと思う。イギリスの子供向けの小説の中で、フォークランド紛争について、父親も母親も祖父も叔母も、みんなムキになつて違う意見を言い、少年が戸惑いながら考える場面があったのを思い出した。

辺野古のテントを訪問した高校生

二人の高校生が辺野古のテントを訪問して「どうして座り込みを続けているのですか」という質問をする。私が一番好きな場面だ。大人からは出てこないだろう予想外の質問をする若者たちの柔らかい好奇心に希望を感じて、私の心は温かくなった。テントのSさんが自分の思いを語る。

安保のことをよく知らない人も知っている人も

アンポは、五〇年間もほったらかされてきたテーマだと書いた。私たちがほったらかした長期間に、多くの人々の血肉に入り込んでしまった。悔しい気持ちで、本当にそう思う。このDVDが、議論の波紋を作るきっかけになることを強く期待する。

【申し込み】日本平和委員会 (FAX: 03-3451-6277 TEL: 03-3451-6377)